

【PRESS RELEASE】

あすとつながる
KHB 東日本放送 50th

2026年2月5日

鈴木奏斗アナウンサーが 「第24回ANNアナウンサー賞」特別賞を受賞! 継続的な水中リポート、地域に根差した活動が評価



k h b 東日本放送(本社・仙台市太白区)の鈴木奏斗アナウンサー(31)が、「第24回 ANNアナウンサー賞」特別賞を受賞しました。鈴木アナウンサーのANNアナウンサー賞受賞は、2022年ナレーション部門以来2回目。特別賞はk h bとしても初の受賞です。

「ANNアナウンサー賞」は、年間を通じて取材・構成・アナウンスメント技術の成長・向上が顕著なANN(テレビ朝日系列)各社のアナウンサーを表彰するものです。ナレーション部門・番組部門・スポーツ実況部門の3部門のほか、選考委員が必要と認めた場合に特別賞が授与されます。

今回の受賞では、「『海の異変』を伝える水中リポートを3年間継続」し、「放送にとどまらず、子どもたちと海の環境保全にも取り組む、地域に根差した実践的な発信活動」をした点が評価されました。

鈴木アナウンサーは報道情報番組「チャージ!」キャスターとしてニュースを伝える傍ら、2022年からは三陸沖に広がる海水温上昇などの影響について3年以上にわたり継続取材しています。スクーバダイビングのライセンスと潜水士の資格を取得し、自ら水中リポートした映像で特集・番組を制作。また放送にとどまらず、宮城県南三陸町・志津川湾で地元の子どもたちと一緒に海の環境保全活動を行う「ぐりりの海プロジェクト」にも携わるなど、テレビの枠を超えた社会活動を展開しています。これら一連の取り組み・姿勢が評価され、「特別賞」の受賞となりました。

【鈴木奏斗アナウンサーの受賞コメント】

このたびは、特別賞という栄誉ある賞に選出していただき、誠にありがとうございます。宮城県沖の三陸の海は、親潮と黒潮が交わる潮目に位置し、海流の変化や海水温の上昇によってその姿が大きく変わりつつある、世界からも注目される海です。その一方、多くのメディアが取材を重ねてきた中で、スクーバダイビングで実際に海に潜り、その変化を体感しながら伝えるキャスターはいませんでした。誰も踏み込んでいないフィールドに身を置き、自分の目で見て、肌で感じ、「自分にしか伝えられない言葉がある」と気づけたことは、アナウンサーとして何にも代えがたいやりがいとなっています。

また、地元の子どもたちに宮城の海の未来について考えてもらうきっかけを作りたいと思い、アマモを植える活動を企画し、取り組んできました。放送で発信するだけでなく、体験を通して一緒に考える場をつくることも、私たちにできる「伝える」形だと感じています。今回の受賞を大きな励みに、これからも現場で学び続けながら、自分だからこそできる伝え方で、未来につながる言葉を届けていきたいと思います。

<受賞歴>

- ◆ANNアナウンサー賞 ナレーション部門 新人賞
仙台育英初優勝 須江航監督が振り返る甲子園『全員野球』
(2022年)
- ◆2022年日本民間放送連盟賞 北海道・東北地区審査会
テレビ教養部門 優秀賞
「テレメンタリー2021
土砂災害と森林伐採－民家に迫る危険－」
- ◆第60回ギャラクシー賞 報道活動部門奨励賞
「三陸の海の異変をめぐる一連の報道」(2023年)
- ◆第66回科学技術映像祭 内閣総理大臣賞
「テレメンタリー2024 “3.11”を忘れない93
100人の証言～命をつなぐ津波避難～」(2025年)
※ディレクター、ナレーションを担当



すずき かなと
鈴木 奏斗 アナウンサー



<これまでの取り組み>

「この海をミライに」「三陸の海の異変」など鈴木アナウンサーが取材した特集企画は、東北総合ポータル「topo」でご覧いただけます。

<https://topo-tv.jp/>



【お問い合わせ】

株式会社東日本放送 広報宣伝部
TEL: 022-304-3015 MAIL:koho@khb-tv.co.jp